

3 続けよう近助、共助の減災・防災対策

 日頃からの隣近所での声かけ、お付き合いが尊い命を守ります。

3. 1 隣近所の近助、班の共助にむけて

大災害が発生した時に、自分たちの地域は自分たちで守るということは、日頃からのご近所との声かけ、挨拶から始まります。そこで、少し意識して、

- ・隣近所（班のグループ）で、日常から声かけ・挨拶、お付き合いをしていきましょう。
- ・隣近所に、支援を必要とする方や高齢者が住んでおられ、日頃の防災活動に問い合わせがあれば、相談に乗りましょう。

3. 2 なぜ、一般防災訓練が必要なのか

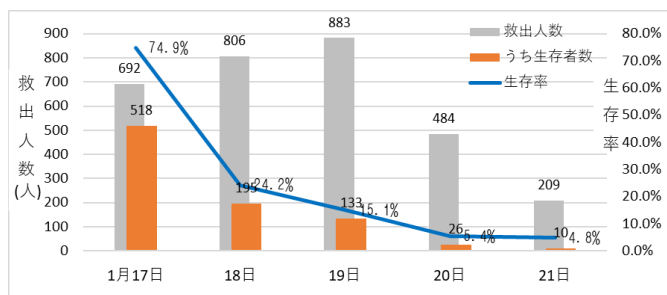
今泉台町内会では、1,2丁目、3,4丁目・山ノ内、5,6丁目、7丁目の4ブロックに分けて年4回の一般防災訓練を行っています。皆さんが訓練に参加したことがきっかけになって、隣近所/班/地区/今泉台地域での共助の意識を深められるでしょう。

一般防災訓練では、市大船消防署今泉出張所職員の指導のもと以下のような訓練を実施しています。

- ① 三角巾の使い方の説明と訓練、毛布と物干し竿による簡易担架の作り方の説明と訓練
- ② 人体模型により心肺蘇生手順の説明と訓練、AEDの使い方の説明と訓練
- ③ 家庭用消火器の使い方の説明、訓練用水入消火器による訓練
- ④ 可搬式消火ポンプの機能・使い方の説明、ポンプ始動・消火ホース延長・放水訓練
- ⑤ 消火スタンドパイプの機能・使い方の説明、消火栓蓋開放し接続口に接続模擬訓練

阪神淡路大震災での「救出者中の生存者の割合の推移（5日間）」を右図に示します。数値が示すとおり災害発生から72時間(3日間)が、人命救助における重要なターニングポイントであるとされます。当然1日目の発災直後からの救出救護が、生と死を分ける時間との戦いになります。

資料：神戸市消防局監修「阪神・淡路大震災神戸地域における消防活動の記録」及び陸上自衛隊中部方面総監部「阪神・淡路大震災災害派遣行動史」より作成



救出者中の生存者の割合の推移（5日間）

3. 3 なぜ、一斉防災訓練（黄旗訓練など）が必要なのか

今泉台町内会では、毎年3月に岩瀬、今泉両町内会と三町内会合同防災訓練を実施しています。これは、訓練会場が指定避難所の今泉小学校であることから、避難訓練も兼ねた一斉防災訓練です。

- ・当日朝8時に大地震が発生したという想定で、町内会に防災本部が立ち上がる。
- ・防災本部から防災無線で、各丁目の防災無線子機を所持している役員や地区委員、救護活動チーム（情報班）などが地域の状況を確認しあう。
- ・災害時集合場所に集まった訓練参加者を先導して今泉小学校まで移動し、訓練に参加する。

また、9月には“防災の日(9月1日)”に因んで、災害が発生した想定のもと黄旗訓練が実施されます。防災無線を活用して各丁目ごとに、各班内のお宅の安否確認をするよう伝達があります。並行して、大地震発生想定時刻後に、各お宅は自分と家族の命を守れたと想定し、黄旗を玄関先に出すことで、隣近所へ明確なメッセージを伝えることができます。黄旗が玄関先に出ていないお宅があれば、隣近所の皆さんが協力して声掛けをして、救助が必要であれば、いち早く救出・救護活動を進めることができます。

大地震発生直後から数日間、行政の救援隊による支援が及ばない状態のなかでも、被災者の救出救護、初期消火、災害情報の収集伝達、給食給水など、様々な活動を必要とします。

もしもの時のために、平常時に防災活動を体験できるのが町内会の一般防災訓練、一斉防災訓練であり、実際の災害で共助につながります。そして、実際の共助に向けて、後述の「もしもの時の行動マニュアル」、「もしもの時の救護活動」に続きます。